

栃木放送平成 22 年度第 7 回 11 月期定例番組審議会議事録

1.開催の日時 平成 22 年 11 月 8 日（火）午前 11 時

2.開催の場所 栃木放送本社会議室

3.委員の出席 委員総数 9 名

出席委員 8 名

欠席委員 1 名

出席委員名	委員 長	増 田 仲 夫
	副委員長	原 沢 佳 子
	委 員	鈴 木 正 好
	委 員	太 田 照 男
	委 員	宇賀神いづみ
	委 員	小 島 俊 一
	委 員	田 村 澄 夫
	委 員	佐 藤 正 典
局側出席者氏名	代表取締役社長	栗 山 正 道
	常務取締役	山 口 純 一
	報道制作本部長	竹 澤 一 夫
	報道制作本部部長待遇	中 山 湖

4 議 題

- (1) 「さかはし矢波の三ツ星クラシック」について
- (2) その他

5 議事内容

- (1) 「さかはし矢波の三ツ星クラシック」について

試聴番組：平成 22 年 11 月 1 日（月）・8 日（月）

20：00～20：30 放送分から抜粋

議題説明：中山湖 報道制作本部部長待遇

クラシック番組の少なくなる中、当社では、二つのクラシック番組を放送している。特に、この 4 月からスタートした「さかはし矢波の三ツ星クラシック」は、地元フルート奏者をパーソナリティに起用。クラシック音楽や演奏家をもっと身近に感じてもらえるような番組作りをめざしている旨を説明し、審議に入った。

各委員からは、

- 夜8時からの放送というのは、時間帯としてどうなのか。パーソナリティの言葉が早くて聴きにくい。ゆったりした感じが欲しい。
- 言葉が切れないで続いてしまう点が聴きにくい。
- ターゲットによると思うが、ラジオのゴールデンタイムというのはどの辺なのか教えて欲しい。話し方については、歯切れは良いが、語尾が聞き取りにくい。うまく間をつなぐ工夫が欲しい。
- 以前、彼のリサイタルを聴いた。軽快なしゃべりで、フルートの吹き方やトークを織り交ぜながら、良いリサイタルだった。話し方については賛否両論あると思うが、ターゲットを考えたトークにして欲しい。
- AMラジオの特性を考えると、音を聴かせるより内容を聴かせる構成は良いと思う。新聞のように、連載・コラム・Q&Aなどのコーナーがあっても良い。
- 私も、同感だ。クラシック番組は途中で解説が入らないとわからない。
- クラシックは、耳慣れないととりつきにくい部分があるが、慣れて、楽しみになってくると良いものだ。“これを聴きたい”となるようにもっていく努力が必要だ。
- 若い人のクラシック離れ対策に、中学校の昼休みにこの番組を流すのはどうか。
- 高校生の吹奏楽コンテストをテレビで見たが、中学生に広げるというのはおもしろい。
- 中高生の吹奏楽部に、番組にでてもらう方法もある。
- “地元の放送として地元の人にでてもらう”という取り組みは良い。
- 学校で放送を流すためには課題点もある。こどもの興味の度合、学校長の判断など、いかにして売り込むかだ。
- 先生による影響は大きい。
- いかに聴かせるか、課題は聴かせ方だと思う。
 などの意見が交わされた。
 当社としては、これらの意見を参考に、今後の番組作りに取り組んでいきたい旨説明した。

(2) その他

22年度第8回12月期の審議会開催日を、決めて閉会した。

以上